

日本の草原は、野焼きや採草、放牧など、農畜産業や茅の生産・利用をはじめとする人々の営みによって育まれてきた、かけがえのない自然です。しかし、生活様式や産業構造の変化により草原は国土の約1%まで減少し、その維持は全国共通の課題となっています。

九重町に広がる草原も、地域の営みによって維持され、多様な生きものや美しい景観、豊かな水を育んできました。しかし現在は、全国の草原と同様に、担い手不足や地域コミュニティの縮小、シカによる植生への深刻な影響、外来種の侵入、気候変動など、多くの課題に直面しています。

一方で、各地では今なお、地域住民をはじめ、多様な主体の協働により草原が守り継がれています。草原は、生物多様性や景観だけでなく、地域の産業や文化、暮らしを支える基盤であり、日本全体で未来へ継承すべき財産です。

さらに、草原の保全と再生は、ネイチャーポジティブ（自然再興）の達成に貢献する重要な取組です。その実現には、地域の努力に加え、自治体相互の連携や国をはじめとする多様な主体との協働が欠かせません。

草原は、過去から受け継いだ自然であると同時に、未来の地域社会を支える社会基盤でもあります。ここ九重町に集った私たちは、「人と自然の関わり」を未来に引き継ぐため、その価値と責任を共有し、次のとおり宣言します。

九重宣言

- ― 私たちは、草原が持つ生物多様性の保全、水源涵養、防災・減災、炭素固定、景観、文化などの価値を改めて認識し、未来世代へ継承するための取組に努めます。
- ― 私たちは、担い手不足や地域コミュニティの縮小、シカ被害、外来種、気候変動など、全国に共通する課題を共有し、自治体相互の連携と情報共有を一層強化します。
- ― 私たちは、「全国草原の里市町村連絡協議会」のネットワークをさらに拡大し、草原を有する自治体の参加拡大を進めるとともに、草原保全の取組や成果、課題を共有・発信する全国ネットワークを一層充実させます。
- ― 私たちは、「未来に残したい草原の里100選」をはじめとする取組を通じて、各地の草原に受け継がれてきた自然・文化・営みを「共創資産」として発信し、その保全と活用を進めます。
- ― 私たちは、草原保全がネイチャーポジティブ（自然再興）の実現に重要な役割を果たすことを広く発信するとともに、草原保全を支える制度の充実と継続的な支援の強化を国に求め、多様な主体との連携を進めます。

以上宣言する。

令和8年9月6日

第15回全国草原サミット in ここのえ

参加自治体一同

静岡県東伊豆町長

岩井茂樹

兵庫県神河町長

山名宗悟

山口県美祢市長

篠田洋司

熊本県産山村長

井雄一郎

大分県竹田市長

土居昌弘

大分県玖珠町長

宿利政和

第15回全国草原サミット・シンポジウム

in ここのえ大会実行委員長

大分県九重町長

日野康志